



やや分かりにくいですが、ザックの右上辺りの段差より山崎は滑落した。ステップの高さは膝ぐらいだったか。

- ・現地地図（黒矢印が実際に通ったコース）



3.計画書

夏合宿においての計画書を以下にあげる

i 行動計画

・実際の山行との比較

期間：8月14日～28日

対象山域 穂高岳～白馬岳

参加者 3年 中本裕哉(CL)、富家政大(SL)

2年 永田拳吾、松村大輔、村松弾

1年 田中沙紀、引尻貴俊、山崎史也

・定着合宿

場所:穂高岳周辺 (BC 涸沢、横尾)

目的:リーダーシップの発揮 (3年)、

穂高周辺の概念把握、生活、登攀、雪上技術の向上 (1,2年)

ザイルパーティ:中本・田中・松村、富家・引尻・永田、村松・山崎

14日 福岡発

15日 上高地～涸沢ヒュッテ、~~雪上訓練~~⇒沈殿

16日 ~~前穂高岳~~北尾根バリエーションルート⇒沈殿

17日 ~~北穂高岳~~東稜バリエーションルート、~~涸沢ヒュッテ~~～横尾山荘⇒沈殿

18日 休養日 ~~上高地にて買い出し、荷物送り返し~~

⇒前穂高岳 北尾根バリエーションルート

19日 事故発生

20日 上高地

~~予備日 19日,20日~~

最終定着終了日 8月20日

iii 装備表

装備表（個人装備）

九州大学山岳部

持ち物	防水の必要	個数	備考	check
ザック	無	1		
ザックカバー	無	1		
サブザック	有	0or1	個人の判断で。カバーも。	
シュラフ	有	1		
シュラフカバー	有	1	シュラフと1セットに。コンプレッションバック等使用	
マット	無	1		
ヘッドライト	有	1		
予備電池	有	2～3	数セットを。ヘッドライトとセットに。電池の型をよく見る。	
コッヘル	無	1式		
武器	無	1	スプーンとフォーク	
プラティパス	無	1～2	予備があると安心。	
ペーパー	有	1	芯を抜いた状態で。	
レインウェア	無	1式		
防寒着	有	3～	フリース、ダウンジャケットなど最低3着。	
サングラス	無	1	UVカット機能必須。	
下山用着替え	有	1～2	靴下、下着、Tシャツ、ズボン、靴など	
帽子	無	1	日焼け、熱中症対策。	
軍手	無	1	雪上訓練用	
ゴム手袋	無	1	雪上訓練用	
捨て合羽	無	1	雪上訓練用。上下が別になっているもの。生地の厚い物が良い	
山靴	無	1		
靴下（登山時）	有	2～3		
アイゼン	無	1	使用方法を確認。購入の可能性あり	

ピッケル	無	1	事前に使い方を確認。カバーをつける。	
笛	無	1	ナイフとセットにして首からかける。	
ナイフ	無	1	同上	
コンパス	無	1	地図・計画書とセットに。	
地図・計画書	有	1	コンパスとセットに。すぐに出せるように。	
地形図	有	1	チンネ・源次郎尾根用	
ライター	有	1	オイルタイプでかつ回転式。	
時計	無	1	目覚まし機能付き。ゴムバンドのもの。	
ボールペン	無	1	天気図を書く者は赤ペン、青ペン、シャープペンも1本ずつ	
メモ帳	有	1		
財布	有	1		
保険証（コピー）	有	1		
非常缶	有	1	靴下×1、下着×1、ろうそく、ライター、防水マッチ、 ボールペン、メモ帳、非常食、エマージェンシーシート、 細引き 5m、固形燃料、遭難用紙×1、	
タオル	無	自由		
ビニール袋	無	3		
ゴミ袋（大）	無	2	デポ時の荷物整理に	
日焼け止め	無	1	SPF50+、PA+++のもの	
虫よけ	無	1	必要な人だけ。	
常備薬	無	適宜	必要な人だけ。	
携帯電話	有	1	必要なら電池充電器	
カメラ	有	0~1		
メガネ留め	無	1		
エッセン	無	19		
学生証	無	1		
登攀用具	無	1	ハーネス・カラビナ・安全環付カラビナ・スリング・ヌンチャク エイト環・確保器（ATC）・ハーケン（軟鉄でない）	
チョークバツ	有	1	任意	

グ				
ヘルメット	無	1		
クレッター	無	1		
リップクリー ム	無	1		
歯ブラシ	無	1	任意	

装備表（共同装備）

持ち物	防水の必要	個数	備考	check
テント	無	2	ステラリッジ 6 型+V3（フライ、ポールも）	
ツェルト	無	3	CL、SL が一つずつ。または、登攀隊、登山隊に 1 つずつ。デポ用に 1 つ	
ザイル	無	6	シングルロープ 2 本+ダブルロープ 2 本+雪上訓練用ザイル 2 本	
板マット	無	2		
食料	有	日数分		
ラジオ	有	1	新しいものを	
予備電池	有	5	ラジオとセットに。	
天気図用紙	有	19	1 日 1 枚*19 日分(予備日分含む)	
医療箱	有	2		
ガス缶	有	7	新品×7（3 日で 1 缶計算）	
ガスヘッド	無	2		
鍋	無	2	米用、調理・湯沸し用。	
かずこ	無	1	おたま、しゃもじ	
ハンマー	無	1or2	スノーバー打ち込み用。雪上訓練用	
スノーバー	無	2	雪上訓練用	
スコップ	無	2	雪上訓練用	
無線機	有	1		
予備電池	有	1セット		
細引き	無	1	5m 程	
ガムテープ	有	1		

4.反省

今回の事故原因は、諸先輩方の意見を参考に、かつ多様な観点から種々の複合的な要因を鑑みるに、その多くを占めるものはやはり北尾根における登攀にて時間がかかり過ぎたことによるものだと思われるだろう。今年度の初めより、日々のトレーニングにおいて登攀技術、ザイルワークの向上に部員一同努めてきたものの1年生にはその十分なレベルに達していない者もいた。北尾根登攀メンバーの選抜かあるいはパーティをもう少しコンパクトにして行動すべきだったと思われる。3峰に登る時点でタイムアップであることは分かっていたのだが、下りるよりも登る方が安全だと判断した上での行動であった。またビバークサイトは適切だったかという点にも意見が分かれるところである。時間を考えて3,4のコールでビバークすべきだったかもしれないし、強引でも歩いて紀美子平より先の奥穂付近、穂高岳山荘まで歩いてもよかったし、岳沢経由で上高地まで降りても良かったかもしれない。事故当時、部員同士の距離にやや開きができつつあり、お互いの足元をヘッドライトで照らしきれていなかったことも一因と言えるかもしれない。長野県警の救助隊員の方にも指摘されたことだが、そもそも行動開始時刻が午前7時というのも遅かった。これは、元々は午前5時からの予定だったのだが、その時に雨が降っていた為、一端様子を見ようという判断を下したためだった。最後に、山崎が山岳保険に入っていなかったことも問題となった。もちろん、合宿に行く前から加入をするように指示しており、ほかの1年生は入っていたのだが、年齢的にもほぼ未成年者が多いであろう1年生には、保護者にも参加の許可と承諾をもらう必要があるのではとの意見が出た。今後このようなことがないようにするため、以下に改善策を示す。

—改善案—

- 山岳保険に加入したことを、プリントアウトさせる。
- 両親の承諾書を提出させる。
- 合宿参加者両親への計画書等の送付。
- 無理のない山行を心がける。
- 実力に見合った山行計画の立案。

5. トレーニングについて

・ 4月の活動

4月20日 皿倉山登山(全)

4月27日 宝満山登山 (全)

・ 5月の活動

5月3日 由布岳登山 (引)

5月11日 雷山登山 (田)

5月18日 九重山登山 (引、山)

5月25日 宝満山系 OB 合同登山 (全)

・ 6月の活動

6月8日 油山クライミング (全)

6月15日 四阿屋クライミング (引、山)

6月21日 ラリーグラスにてクライミング (山)

6月27日 雷山歩荷 (全)

・ 7月の活動

7月6日 宝満山～三郡山歩荷 (全)

7月20日 日向神マルチピッチ合宿 (全)

・ 8月の活動

8月10日 宝満～若杉山歩荷 (全)

カッコ内はそれぞれの苗字の一文字目であり、(全)は全員参加を指す。